

地域医療連携室だより vol.1

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

地域医療連携室の仕事

患者さんが住みなれた地域で保健・医療・福祉サービスが受けられるように、医療機関をはじめとする関係機関と蒲郡市民病院との窓口として発足しました。これまでの病診連携室の業務も引き継ぎながら概ね以下の仕事をしています。

- ・診療所等からの紹介患者の連絡調整
- ・関係機関との研修、会議の連絡調整
- ・保健、医療、福祉に関する情報提供
- ・患者さんからの医療等の相談
- ・安定、軽快等による退院調整



小林室長、石原副室長、牧野副室長、小笠原副室長、宮瀬副室長補佐、ディスプレイナーズの小田師長、神田主任、社会福祉士の高橋係長、木下主査、事務員の尾崎、石原、鈴木が連携室のスタッフです。

院長あいさつ

蒲郡市民病院 院長 河邊義和



朝晩涼しくなりましたが、先生方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素から蒲郡市民病院の運営に多大なるご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

新病院移転後今年で15周年となりますが、その当時から病診連携室を開設し、開放病床との連携、外来診療や検査の予約業務を開始していました。その後は需要に合わせて他の医療機関への転院先の調整や、患者さんの医療福祉に関する相談窓口として医療困りごと相談室も設置しています。また昨年からは看護師による退院調整業務を始めるなど、地域とかわりを持つ業務が次第に広範囲に、しかも量的にも増加の一途をたどっています。

そこで今回この7月からこれらの業務を包括的に取り扱う部門として“地域医療連携室”を設置し、体制の更なる充実を図ることになりました。今まで以上にお互いの顔の見える形で地域の医療機関との連携をすすめ、地域医療の輪をさらに広げてつながりを大切に、よりよい医療の提供、地域医療のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。さらに医療機関のみならず、福祉・介護施設、住民の皆さんにとって気楽に相談できる窓口としてもご利用いただき、地域の皆さんの健康に貢献できるよう努力していきたいと思っています。よりいっそうのご支援を受け賜われますようお願いいたします。

—連携室からのお願い—

医療機関等から紹介患者依頼票や紹介状を事前にファックスいただくことがありますが、記載された患者さんの住所等に誤りがあることがあります。後になって患者さんにご迷惑をかけてはいけませんので、連携室窓口では来院時に住所等の確認をしておりますが、記載に誤りがある場合、念のため患者さん自身あるいは家族の方に住所等の記載をしていただいております。あらかじめご了承ください。

地域医療連携室だより vol.1

発行：蒲郡市民病院 地域医療連携室

TEL 0533-66-2307

蒲郡市民病院小児科

平成 24 年 4 月から、小児科常勤医が増員され 5 人体制になりました。現在も、河辺義和病院長（専門：小児発達、肝臓など）は精力的に外来診療、カウンセリングを行っています。渡部珠生部長（専門：小児循環器）、山田拓司医長（専門：小児腎臓）、梅村佳菜医師（専門：内分泌、アレルギー、未熟児・新生児）に加え、昨年度まで研究医だった伊藤彰悟医師が、小児科医の道を歩き始めました。



その他に、より専門性の高い診療のため、非常勤として 栗屋厚子医師（専門：小児神経、発達）、上村憲司医師（専門：内分泌）、日比将人医師（専門：小児外科）、箕越美津子医師（専門：小児発達）に専門外来診療をお願いしています。

近年、午後の予約診である専門外来が徐々に充実してまいりました。特に、昨今話題になることが多い発達障害児の診療について、専従看護師、臨床心理士、リハビリテーション部などと連携をとることにより、拡充を図っています。現在、発達障害の児の約 150 名が、ソーシャル・スキルトレーニング、言語訓練などに定期通院中です。

また昨今の特徴である食物アレルギーを有する児も多く、昨年は食物負荷試験を 1 泊 2 日のスケジュールで 13 名に実施しました。特に重症なアナフィラキシーショック既往のある児 12 名に、エピペンを処方し、それらの子については、家族だけでなく、病院栄養士、地域の保健師、保育園・小学校の教諭とも連携をとるようにしています。

加えて、先天性心疾患の児、または学校検診で異常を指摘された児に対して、昨年は心臓カテテル検査を 8 名に、Holter 心電図検査を 26 名に実施いたしました。今年からは腎臓外来も開設し、すでに腎生検も 2 名実施しています。未熟児・新生児部門でもバブル-CPAP の導入により、一過性多呼吸の児なども管理できるようになりました。

おかげさまで一次医療は医師会の先生方のご協力もあり、住み分けはかなりできていると思います。今後も地域の先生方としっかり連携し、入院などの二次医療と専門性をもった外来の実施を中心として、救急、時間外診療でも信頼される市民病院をめざしていきます。さらなるご指導のほどよろしくお願いいたします。

文責 渡部珠生